

令和7年度

南アルプス市教育委員会
点検及び評価報告書

【令和6年度事務事業分】

令和7年8月

南アルプス市教育委員会

目 次

I 点検及び評価について

1 趣旨	3
2 点検及び評価の対象とした事務	3
3 評価の点数表	4

II 点検及び評価のまとめ

1 教育委員会の活動に対する点検及び評価.....	4
2 教育委員会事務局の事務事業に対する点検及び評価.....	4

III 教育委員会の活動についての点検及び評価

1 教育委員会の活動状況	1 1
2 教育委員会の活動に対する点検及び評価	1 7

IV 教育委員会事務局の事務事業についての点検及び評価

1 教育委員会事務局の事務事業について	1 9
2 第2次南アルプス市総合計画 体系（教育委員会関係抜粋）	1 9
3 第2次南アルプス市教育振興プラン 体系（抜粋）	2 0
4 教育委員会事務局の事務事業に対する点検及び評価について	2 2

I 点検及び評価について

1 趣 旨

南アルプス市教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の報告書を作成し、南アルプス市議会に提出するとともに、市民の皆さまに公表をしています。

これは、教育委員会の責任体制を明確化するため、平成19年の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正において義務付けられたものです。

南アルプス市教育委員会では、自らが点検及び評価を行った結果を、今後の事務の執行に反映し、効果的な教育行政を推進していきます。

2 点検及び評価の対象とした事務

(1) 教育委員会の活動に対する点検及び評価

委員自らが教育委員会活動の内容を振り返り、評価を行った上で評点し、意見を記載しました。

(2) 教育委員会事務局の事務事業に対する点検及び評価

南アルプス市では南アルプス市総合計画の進行管理を行うための手法として、行政評価システムを取り入れ、すべての事務事業に対して「事務事業マネジメントシート」を作成し、内部評価を実施しています。

点検及び評価に関しては、この行政評価システムを活用し、南アルプス市教育委員会に属する事務事業の執行状況等について振り返り、取りまとめを行いました。また、令和4年3月に策定した「第2次南アルプス市教育振興プラン」との関連について、施策の体系にある14の施策に該当する番号を事務事業ごとに表示しました。

ただし、事業選択や予算規模に自由裁量がない「国・県の制度による義務的事業」や「義務化されている協議会等の負担金に係る事業」については、対象外としました。

①事務事業総数：174事業

②点検及び評価した事務事業118事業

③点検及び評価から除いた事務事業：56事業

※義務的事業及び義務化されている協議会等の負担金に係る事業を除く。

3 評価の点数表

評価の点数は、「5」から「1」までの5段階評価で行いました。

5	目的をはるかに超え達成、他への波及効果などが見られる。
4	目的以上に達成
3	目的どおり達成
2	目的までは達成できなかった。
1	目的までまったく達成できなかった。

II 点検及び評価のまとめ

1 教育委員会の活動に対する点検及び評価

(P 17、2(1)～P 18、2(4)の4項目の平均)・・・平均評点：3.9

教育委員会定例会を12回、臨時会を2回開催しました。定例会では、条例等の一部改正、重要案件の審議、教育委員会所管の各種委員会等の委員の選任を行い、臨時会ではいじめ問題対策委員会の設置などの審議を行いました。

定例会については、教育委員や関係職員が出席しやすい会議を目指し、夜間に開催することも行いました。

研修会等については、教育委員に対し、各課から主要事業の説明を行い、教育行政の推進状況を確認していただくとともに、課題についても把握していただくことができました。

学校訪問については、小中学校22校すべての学校で実施しました。学校長等から学校現場の現状の説明を受けるとともに、実際に授業参観を行い、教職員の取り組みや児童・生徒の様子を確認しました。

2 教育委員会事務局の事務事業に対する点検及び評価

(1) 基本政策 : 4 心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成

施策名：26 生涯学習の推進 (P 22～施策26の42事業の平均)

・・・平均評点：3.2

『公民館運営管理事業』では、楡形地区3分館において分館長、主事が中心となり、地域の実情に応じた公民館活動を行う中で、地域住民の交流や文化振興を図りました。

『生涯学習推進事業』では、市の広報紙やホームページ等で学習情報を周知する中で、

市民が将来にわたり学び、各種講座等への参加を通じて学習活動に継続して親しむことができる環境づくりに努めました。学びの動機づけとなるよう「市主催講座」としては、書道や陶芸、自然観察教室などを開催したほか、学んだ成果を活かす場として自らが講師となる「自主企画講座」の開催支援にも取り組みました。

『各社会教育施設管理費』では、甲西農村環境改善センター等の市直営施設及び高度農業情報センター等の指定管理者制度導入施設において、効率的な管理運営と適切な維持管理を実施しました。また、必要に応じて修繕や改修の設計も行い、利用者が安全・安心に使用できる環境整備に努めました。

『保健体育総務管理費』では、スポーツ推進委員との連携により、子どもから高齢者まで楽しめる軽スポーツの普及や高齢者を対象とした楽しく体を動かす健康スポーツ教室等の開催を通して、生涯スポーツ活動の推進に取り組みました。また、生涯スポーツの普及振興を図るため、市スポーツ協会や県外スポーツ大会出場に対する支援を行いました。

『体育施設維持管理費』では、指定管理者制度導入により効率的な管理運営に努めるとともに、施設の適正な維持管理を行い、利用者が安全・安心に使用できるような環境整備に努めました。

『体育施設整備事業』では、リニア建設工事に伴う甲西市民総合グラウンドの機能回復に向けた整備工事を行い、グラウンドを完成させることができました。

市立図書館では、デジタル田園都市国家構想交付金を活用して、電子書籍・LINE連携等の付加価値を加えた新しい電子図書館システムに更新し、「いつでも」「どこでも」「だれでも」読書を楽しむことができる環境を整備しました。また、学校と連携して市立小中学校の児童・生徒及び教職員に電子図書館サービスを提供し、クロームブックで電子書籍を読むことができるようになりました。

『図書館子どもの読書活動推進事業』『図書館生涯学習推進事業』では、ともに事業への参加者数が前年度を上回りました。

『楡形生涯学習センター事業』では、市民が安全・安心に学習及び文化的活動に取り組めるよう、ホール音響設備の改修工事等を実施し、主催事業として「図書館でシネマ」「図書館警察音楽隊コンサート」を開催しました。

ふるさと人物室では、南アルプス市にゆかりのある人物の企画展や講演会を行うとともに、偉人マンガ「東京タワーをつくった人『内藤多仲』」を増刷し、マンガを活用した講座等を開催することで、ふるさと教育の推進を図りました。また、テレビ番組「やまなし偉人伝・内藤多仲編」に制作協力し、南アルプス市の偉人について広く周知することができました。

市立美術館では、企画展として「なばたとしたか こびとづかんの世界」展を、常設として「白簀史朗 日本の名峰を撮る」、地元作家である「山本正文と詩人たち」展、

「南アルプスと富士川流域の作家たち」展V o 1 7として「本杉 琉」展など魅力ある展覧会の開催に努めました。

『教育普及事業』では、子どもから大人までを対象としたワークショップや美術体験講座を開催しました。学校からの要請により職員が学校に出向きワークショップを行う「出張美術館」を実施し、博学連携を推進しました。また、企画展開催時には、市内文化施設と連携したスタンプラリーなどのイベントを開催しました。

(2) 基本政策 : 4 心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成

施策名: 2 7 歴史・伝統文化の振興 (P 2 9～施策 2 7 の 1 3 事業の平均)

・・・平均評点: 3. 5

『文化財の保護』では、所有者・管理者への適切な助言や補助事業の実施などに努める一方、『教育普及事業』を実施し、実施回数は2 5 7回、参加延べ人数1 0, 3 81人を数えました。内訳は小中学校等に出向き授業を行った回数が1 3 5回、教職員向けの研修が1 2回、その他一般向けの講座等が1 1 0回でした。実施数は、前年度に比べ約1 0 %増加しており、特に学校等を除く一般向けの講座数1 1 0回は、合併以来最多となりました。市民ニーズの高まりが見て取れます。

『埋蔵文化財』では、市内における公共事業や民間開発と調和した遺跡の保護を図るために、適時適切な試掘確認調査等の実施に努めました。令和6年度の試掘調査の実施件数は2 3件、工事立会等件数は1 1 7件でした。発掘調査(本調査)は、県公共事業に伴う2件、民間開発に伴う1件を受託しました。また、令和6年度からフモット建設に伴い実施した発掘調査の整理作業を始めています(令和1 0年度まで5か年計画)。国指定史跡「御勅使川旧堤防」の整備に関しては、令和4年度から整備を行っている杵形堤防部分の整備を完了させ、一般公開を開始しました。また、史跡保存整備委員会を開催し、杵形堤防を除く、石積出、将棋頭の今後の整備方針を検討するとともに、今後の整備に向けて石積出三番堤の確認調査(発掘調査)を実施しました。

『ふるさと文化伝承館』は、史跡御勅使川旧堤防(将棋頭・石積出)の指定2 0周年と杵形堤防史跡整備完成・一般公開を記念したテーマ展「てっすげえじゃんけ! 杵形堤防、将棋頭、石積出」と、ふるさと〇〇(まるまる)博物館推進事業と連携したテーマ展示「にしごおりのぼこんとう(西郡の子どもたち)」を開催しました。また、令和6年度から整理作業が始まったフモットからの出土土器の速報展示も随時行いました。年間の利用者は、昨年度に引き続き、開館以来最高を更新し、前年度から5 %増の9, 7 6 8人となりました。物品販売額も約1 0 8万円と堅調です。

『安藤家住宅管理運営事業』、『同イベント開催事業』では、重要文化財としての「安藤家住宅」の価値を損なわないよう適切に管理するとともに、令和6年度は、令和5年

度の大型バス駐車場とトイレの整備を受けて一層の活用が図られるよう重点的に取り組みました。具体的には、周知活動を集中的に実施するとともに、マスコミにも積極的に情報を発信し、コロナ禍で中止していた「安藤家秋まつり昼の部」を再開したのをはじめとして、毎月必ず何かの催事、イベントが行われるように企画しました。内容についても前例踏襲にとらわれず、費用対効果などを精査し、内容を見直した結果、令和6年度の入館者数は5,703人となり、前年比146%と大幅に増加しています。

『ふるさと〇〇博物館推進事業』では、新たな証言の収集、資料の収集などを継続して行いました。近年は事業の浸透に伴い、こちらからの働きかけなくとも、市民の側から資料や情報の提供をいただくケースが増えています。このような調査・収集の成果等を反映した「デジタルアーカイブ」への地域資源の登録件数も順調に増え、令和6年度末時点で前年比20%増の1,191件を数え、はじめて1,000件を超えました。年度中のアクセス件数も72万件、前年比107%と着実に増加し、高水準で推移しています。

(3) 基本政策 : 4 心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成

施策名 : 28 学校教育の充実 (P31～施策28の47事業の平均)

.....平均評点: 3.0

『南アルプス市貸与事業』は、制度の活用を促進を図りました。『奨学金事業』では、様式等の見直しにより現状に見合った改正を行いました。『育英会事業』では、奨学生の選考等について、適正な事務を執行することができました。

『就学援助事業』においては、小中学校に通う経済的に困窮している児童・生徒へ適切な支援を行いました。

『市指定研究事業』では4つの指定校研究事業に取り組みました。

1つ目の『学びの質を高める授業づくり推進事業』については、3校(白根百田小学校:1年目、小笠原小学校:2年目、楡形中学校:2年目)を指定校とし、ICTの活用を進めながら、児童・生徒がお互いの考えや表現を聴き合い、学び合う授業づくりについて研究を推進しました。

2つ目の『南アルプス自然体験推進事業』では、ユネスコスクールに認定されている芦安小中学校を指定校とし事業を展開しました。登山等を行いながら、自然を愛する心や人間性を育む取り組みを行いました。

3つ目の『いじめ・不登校未然防止推進事業』では、市内全小中学校でQ-U検査(楽しい学校生活を送るためのアンケート)を実施し、学級状態の把握を行い、支援を必要としている児童・生徒への早期対応を図りました。

4つ目の『小中学校における小笠原流礼法推進事業』では、師範を全小中学校に派遣し、礼法を取り入れた心の教育を推進するとともに、全小中学校で礼法に則った卒業証書授与式を行いました。

『市単講師派遣事業』では、34人の市単講師等を小中学校へ配置し、多人数学級への対応、特別支援教育の推進、基礎学力の向上及び一人ひとりの特性に応じたきめ細かな指導の充実等を図りました。

『教育支援センター事業』では、北部と南部に教育支援センターを開設し、学校へ登校することが困難な児童・生徒が通う第三の居場所として、家庭や学校と連絡を取りながら、学習支援、教育相談を行いました。南部教育支援センターは甲西農村環境改善センターの改修に伴い、移転場所を検討し、受け入れができるよう移転施設の改修を行いました。

『外国語指導講師配置管理事業』では、小中学校にアドバイザー1人と10人のALTを配置し、「聞く・話す」ことを中心に指導を行い、児童・生徒のコミュニケーション能力の向上を図ることができました。生の英語に触れることを通して、他国の文化や外国語（英語）に親しみをもち、国際的な理解を深めることに努めました。

『芦安教育推進事業』では、芦安小中学校に専任のALT1人を置き、また複式解消として、市単講師を2人配置しました。英語教育ときめ細かな指導の充実に努めました。

『小中一貫教育研究推進事業』では、全ての小中学校が小中一貫校になりました。推進協議会の中で成果と課題について話し合い、それぞれの地域の特徴を活かせるような一貫校の運営について協議し、取り組みを進めました。

『学校運営協議会事業』では、八田地区・芦安地区・若草地区で、小中一貫校として学校運営協議会を行い、地域との連携を図りながら取り組みを進めました。

教育環境づくりでは、『スクールガードリーダー事業』や地域ボランティアを活用した『学校応援団育成事業』に取り組み、児童・生徒の安全確保や教育活動全体の充実を図りました。

『各学校給食』では、子育て支援として、児童・生徒の給食費の無償化を実施しております。また、油や小麦粉など給食用の食材の値上げが続くなか、令和6年度からの給食費を見直し、賄材料費を増額し、献立等を工夫しながら、質・量とも内容を維持することができました。アレルギーについては、マニュアルに基づき、児童・生徒のアレルギー食への対応を実施しました。給食費の未納については、給食費無償化のため、過年度未納の減少に専念する中で、支払督促や不納欠損を適正に事務処理しました。

『学校給食費等補助金交付事業』では、市立学校以外の義務教育諸学校に在学している児童・生徒の保護者や、市立小中学校に在学しているが食物アレルギー等やむを得ない事情により弁当を持参する児童・生徒の保護者に対して補助金を交付しました。

(4) 基本政策 : 4 心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成

施策名 : 29 学校施設の整備 (P 37～施策29の5事業の平均)

.....平均評点 : 3.0

『小学校施設設備整備事業』では、市立15小学校の既存施設・設備の維持管理や、環境改善のための改修及び更新を行いました。

『若草小学校改築事業』では、校舎解体工事が完了しました。また、校舎改築工事3件(建築主体工事・電気設備工事・機械設備工事)の契約を締結し、工事に着手しました。

『中学校水泳授業民間施設等活用事業(試行)』では、今後の学校プール施設整備の在り方について方向性を検討するため、白根御勅使中学校の水泳授業を白根B&G海洋センターのプールを利用し実施しました。

『中学校施設設備整備事業』では、市立7中学校の既存施設・設備の維持管理や、環境改善のための改修及び更新を行いました。

(5) 基本政策 : 4 心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成

施策名 : 30 青少年の健全育成の推進 (P 38～施策30の11事業の平均)

.....平均評点 : 3.0

『青少年交流事業』では、児童・生徒の夏休み期間を利用して、国内友好姉妹都市の町村と地域間交流を行いました。東京都小笠原村へは中学生20人が訪問し、北海道津別町からは小学生19人を受入れました。生まれ育った環境が異なる児童・生徒との交流や歴史・文化を体験する機会を設けることにより、児童・生徒は相手に対する思いやりの心と感謝の気持ちを育み、ふるさと南アルプス市の良さも再認識することができました。なお、能登半島地震の影響により石川県穴水町への訪問は中止となりました。

『青少年対策事業』では、3人の青少年育成コーディネーターが中心となり、地域や学校との連絡調整を図る中で青少年の健全育成の活動を推進しました。また、地域ぐるみで青少年の成長を見守り支える青少年育成市民会議、子どもクラブ指導者連絡協議会、南アルプス警察署管内少年補導員連絡協議会、市商工会青年部が主催する『キッズタウン南アルプス』への活動支援を行いました。

次代を担う若者の門出を祝福する「二十歳のつどい」には632人の参加がありました。式典対象者で組織する実行委員会が、主催者の一員として式典の企画・運営を行いました。また、YouTube市公式チャンネルを活用し、式典に参加できない人に向け、式典のライブ配信を行いました。

地域や学校でリーダーとして活躍する生徒を育成するための『ジュニアリーダー養成事業』では、様々な体験活動や交流活動が経験できる多様なプログラムを提供する中で、住んでいる地域や学区を超えた仲間と団体での活動を通じて、地域や学校のリーダーとして活躍できる人材の育成に取り組みました。研修会を16回開催し、延べ168人の参加がありました。

Ⅲ 教育委員会の活動についての点検及び評価

1 教育委員会の活動状況

教育委員会は、教育行政の中立性・安定性を確保するため、地方公共団体の長から独立して設置されています。

平成27年4月1日施行の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」により現在、教育委員会の構成は教育長と5人の委員で構成しています。

(1) 教育委員会の定例会・臨時会

教育委員会は、原則として、毎月会議を開催しており、合議により教育行政の基本方針や重要事項などを審議し決定しています。

また、必要に応じて、随時、臨時会も開催しています。

○開催状況・・・定例会12回、臨時会2回

開催月日 (区分)	案件区分	件 名
4月15日 (定例会)	議事	<ul style="list-style-type: none"> ・南アルプス市中央公民館館長等の退任及び任命について ・南アルプス市学校運営協議会委員の委嘱又は任命について
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・指定学校変更の許可状況について ・令和6年度南アルプス市研究指定校等について ・緊急連絡網について ・南アルプス市教育委員会年間行事予定（前期）及び4・5月について
5月16日 (定例会)	議事	<ul style="list-style-type: none"> ・南アルプス市教育委員会表彰について ・若草中学校区学校運営協議会委員の委嘱又は任命について ・南アルプス市内小中学校 学校評議員の委嘱について ・南アルプス市内小中学校 学校関係者評価委員の委嘱について ・南アルプス市内小中一貫教育推進協議会委員の委嘱について ・教育財産（土地）の用途廃止について ・安藤家住宅運営委員会委員の委嘱について ・南アルプス市子どもの読書活動推進協議会委員の委嘱又は任命について
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・指定学校変更の許可状況について ・南アルプス市教育委員会5・6月行事予定について
6月19日 (定例会)	議事	<ul style="list-style-type: none"> ・フリースクール等のガイドラインに基づく申請に関する協議について ・南アルプス市社会教育団体の認定について ・南アルプス市部活動地域移行推進協議会委員の委嘱について
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・南アルプス市奨学金貸与奨学生の決定について ・指定学校変更の許可状況について ・南アルプス市熱中症ガイドラインについて ・若草小学校校舎改築工事請負契約及び若草小学校校舎解体工事変更契約の締結について ・緊急連絡網について ・南アルプス市教育委員会点検及び評価報告書の作成について ・南アルプス市教育委員会6・7月行事予定について

7月11日 (定例会)	議事	・南アルプス市二十歳のつどい実行委員会委員の委嘱について
	その他	・指定学校変更の許可状況について ・南アルプス市教育委員会 7・8 月行事予定について
8月8日 (定例会)	議事	・令和 7 年度使用中学校教科用図書の採択について
	その他	・南アルプス市教育委員会点検及び評価報告書について ・指定学校変更の許可状況について ・南アルプス市教育委員会 8・9 月行事予定について
9月4日 (臨時会)	議事	・南アルプス市いじめ問題対策委員会の設置について ・南アルプス市いじめ問題対策委員会委員の委嘱について ・南アルプス市いじめ問題対策委員会への諮問について ・南アルプス市いじめ防止連携会議委員の委嘱又は任命について
9月24日 (定例会)	議事	・南アルプス市二十歳のつどい実行委員会委員の委嘱について ・南アルプス市図書館条例施行規則の一部改正について ・南アルプス市立図書館電子図書館サービス実施要綱の制定について
	その他	・第 2 次南アルプス市教育振興プランの進捗状況について ・小林愛則育英奨学金決定者及び卒業生進路の報告について ・指定学校変更の許可状況について ・令和 6 年度全国学力・学習状況調査 南アルプス市全体のまとめについて ・山梨県市町村教育委員会連合会秋季研修会について ・中北地区地域教育フォーラムについて ・指定研究「学びの質を高める授業づくり」研究指定校の公開研究会について ・芦安小中学校 学校説明会について ・南アルプス市教育委員会 9・10 月行事予定について
10月24日 (定例会)	議事	・フリースクール等のガイドラインに基づく申請に関する協議について
	その他	・指定学校変更の許可状況について ・南アルプス市教育委員会年間行事予定（後期）及び 10・11 月行事予定について
11月14日 (定例会)	議事	・南アルプス市奨学金条例施行規則の一部改正について ・公の施設の指定管理者の指定について
	その他	・南アルプス市教育委員会 11・12 月行事予定について
12月24日 (定例会)	議事	・南アルプス市学校運営協議会規則の一部改正について ・フリースクール等のガイドラインに基づく申請に関する協議について
	その他	・指定学校変更の許可状況について ・芦安小中学校 学校説明会について ・学級閉鎖・学年閉鎖措置について ・南アルプス市教育委員会 12・1 月行事予定について

1月20日 (定例会)	議事	<ul style="list-style-type: none"> ・南アルプス市いじめ問題対策委員会からの答申について ・南アルプス市教育情報セキュリティ規則の制定について ・南アルプス市教育情報セキュリティ委員会設置規程の制定について
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・指定学校変更の許可状況について ・芦安小中学校転入学許可について ・南アルプス市教育委員会1・2月行事予定について
2月12日 (定例会)	議事	<ul style="list-style-type: none"> ・財産の取得（中学校教師用指導書）について ・南アルプス市社会体育施設条例の一部改正について ・南アルプス市社会体育施設条例施行規則の一部改正について ・南アルプス市文化財保存活用地域計画協議会条例の制定について ・南アルプス市立学校給食センター条例施行規則の一部改正について
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・指定学校変更の許可状況について ・学級閉鎖・学年閉鎖措置について ・南アルプス市教育委員会2・3月行事予定について
2月20日 (臨時会)	議事	<ul style="list-style-type: none"> ・市長の権限に属する事務の事務委任に係る同意について ・市長の権限に属する事務を教育委員会の補助機関たる職員等に補助執行させることに係る同意について
3月17日 (定例会)	議事	<ul style="list-style-type: none"> ・南アルプス市教育委員会事務局等組織規則の一部改正について ・南アルプス市教育委員会事務決裁規程の一部改正について ・南アルプス市立芦安小中学校実用英語技能検定料補助金交付要綱の制定について ・南アルプス市小中学校体育大会等出場補助金交付要綱の改正について ・フリースクール等のガイドラインに基づく申請に関する協議について ・「指導要録上出席扱いとすることができる不登校児童生徒を対象とした民間施設（フリースクール等）のガイドライン」の改定について ・南アルプス市いじめ防止基本方針改訂について ・南アルプス市いじめ問題対策委員会からの答申における対応について ・南アルプス市社会教育委員の委嘱について ・南アルプス市公民館運営審議会委員の委嘱について ・南アルプス市中央公民館長、地区分館長及び主事の任命について ・南アルプス市スポーツ推進委員の委嘱について ・南アルプス市図書館協議会委員の委嘱について
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・教育長職務代理者の指名について ・指定学校変更の許可状況について ・教育情報セキュリティポリシー・教育情報セキュリティ対策基準の策定について ・小中学校体育大会等出場補助金交付要綱における対象大会の見直しについて ・南アルプス市教育委員会3・4月行事予定について

(2) 学校訪問

教育委員会では例年、５月～７月にかけて市立小中学校２２校の巡回訪問を行っています。訪問では子どもの様子や教員の指導方法などを確認しています。また、学校側と意見交換を行い、課題があれば改善するよう助言を行っています。

訪問日	訪 問 先
５月２４日	白根百田小学校
５月２７日	小笠原小学校
５月２８日	白根飯野小学校
５月２９日	若草南小学校
５月３０日	豊小学校
６月２０日	芦安小学校・芦安中学校
６月２１日	白根御勅使中学校
６月２４日	楡形北小学校・楡形西小学校
６月２５日	白根巨摩中学校・八田中学校
６月２６日	若草小学校
６月２７日	白根源小学校
６月２８日	落合小学校・南湖小学校
７月２日	八田小学校
７月３日	大明小学校
７月４日	白根東小学校
７月５日	若草中学校
７月８日	楡形中学校
７月９日	甲西中学校

(3) 研修会等への参加

教育委員会では、例年各種研修会、総会及び大会等に積極的に参加し、教育行政に関する情報収集や各市町委員との意見交換等を行い、各自の資質向上に努めています。

① 中北地区教育委員会連合会

月日	件 名	出席者
4月23日	令和6年度定期総会及び研修会	教育長・教育委員
6月20日	第1回教育長部会	教育長
9月18日	第1回理事会	教育長・教育長職務代理
11月18日	教育事情研修会	教育長・教育委員
3月	第2回理事会（書面決議）	教育長・教育長職務代理

② 山梨県市町村教育委員会連合会

月日	件 名	出席者
7月30日	第1回理事会	教育長職務代理
10月22日	秋季研修会	教育長・教育委員
2月4日	第2回理事会	教育長職務代理
2月21日	定期総会及び春季研修会	教育長・教育委員

③ 県外研修

月日	件 名	出席者
5月8日	E D I X（教育総合展）東京 研修会	教育長・教育委員

④ その他各種大会・行事への出席 ※全教育委員が出席対象のみ掲げてあります。

月日	件 名
4月	市内小中学校 入学式
4月14日	第22回南アルプス桃源郷マラソン大会
6月12日	いじめ不登校未然防止事業 教育講演会
6月27日	第1回中北地区地域教育推進連絡協議会研修会
8月6日	弁護士による教育講演会
8月23日	GIGAスクールに関わる教育講演会
10月17日	中北地区地域教育フォーラム
10月31日	公開研究会（小笠原小学校）
11月6日	芦安小中学校説明会
11月27日	拡大校内研究会（白根百田小学校）
12月4日	公開研究会（楡形中学校）
1月23日	第2回中北地区地域教育推進連絡協議会研修会
2月5日	学びの質を高める授業づくり教育講演会
3月	市内小中学校 卒業式
3月30日	第23回南アルプス桃源郷マラソン大会

（４） 総合教育会議

総合教育会議は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」により、平成27年6月から開催しています。政策推進課主催のもと、市長が招集し、市長、教育長、教育委員の構成により、市長と教育委員会との対等な執行機関同士の協議・調整を行っています。

○開催状況・・・年1回

開催月日	案件 区分	件 名
2月20日	協議 事項	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の地域移行について ・市内小中学校の学力状況と課題について

2 教育委員会の活動に対する点検及び評価

教育委員会としての自らの活動内容を「教育委員会の定例会議・臨時会」、「教育委員会と事務局の連携」、「教育委員の自己研鑽」及び「学校・教育施設への支援」の4項目に分け、それぞれに点検項目を設け、教育委員自らがその目的に照らし、評価を行った上で点数化し、意見を記載しました。

(1) 教育委員会の定例会議・臨時会

点検項目	会議の開催回数	評点	4. 0
実績	定例会 1 2 回 ・教育委員会会議規則に基づき、定例会を毎月 1 回開催した。 (審議案件数: 4 4 件) ・限られた時間の中で、効果的・効率的な会議運営に努めた。 臨時会 2 回 ・南アルプス市いじめ問題対策委員会の設置など。 ・市長の権限に属する事務の事務委任に係る同意など。		
評価の視点	① 必要な会議の回数は確保され、円滑な運営が行われていた。 ② 全教育委員が参加できるように日程及び開始時間の調整がされていた。 ③ 臨時会の開催には、電話等で適切に開催日等の調整が行われていた。		

(2) 教育委員と事務局との連携

点検項目	情報提供等	評点	4. 3
実績	・議案や資料を事前に配布することで、会議までに内容の把握、考察、調査研究の時間が持てるよう、情報提供に努めた。 ・会議日程について、可能な限り予定の調整ができるよう事前調整に努めた。 ・各種研修会の案内について、随時情報提供を行った。		
評価の視点	① 常に細かな連絡調整をしていただき、安心して参加することができた。 ② 事前に会議資料が配布され、審議内容を把握して会議に臨むことができ、大変有意義に会議に臨むことができた。 ③ 会議資料以外にも、必要と思われる内容は随時、情報提供されていた。		

(3) 教育委員の自己研鑽

点検項目	研修会等への参加	評点	3. 6
実績	<ul style="list-style-type: none"> ・南アルプス市教育委員研修会を開催し、各課の主要事業の説明をする機会を設けた。 ・中北地区教育委員会連合会「教育事情研修」等に参加した。 ・その他 各種研修会、会議へ参加した。 		
評価の視点	<ul style="list-style-type: none"> ① 各種研修会に参加することにより、新たな学びの機会を得ることができた。 ② 参加した研修会から、教育委員としての活動に有益な学びの機会となった。 ③ コロナ禍が過ぎ様々な学習会・研修会が多く、大変だった。 		

(4) 学校・教育施設への支援

点検項目	学校訪問	評点	3. 6
実績	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の小中学校22校の学校訪問を行い、各学校の特色ある学校経営、小中一貫校の取り組み状況等を聴取した。 ・各教室の授業内容を視察し、学校現場との意見交換を図ることができた。 		
評価の視点	<ul style="list-style-type: none"> ① それぞれの学校の実態や抱えている問題を知る機会となり有益だった。 ② 児童生徒及び教職員の様子や学校施設等の状況を直接見ることで、教育の成果や課題を把握することができた。 ③ 子どもたちのために頑張っている先生方の様子を直接見る良い機会となった。 ④ 端末を使用する授業が増加してきたことがわかった。 		

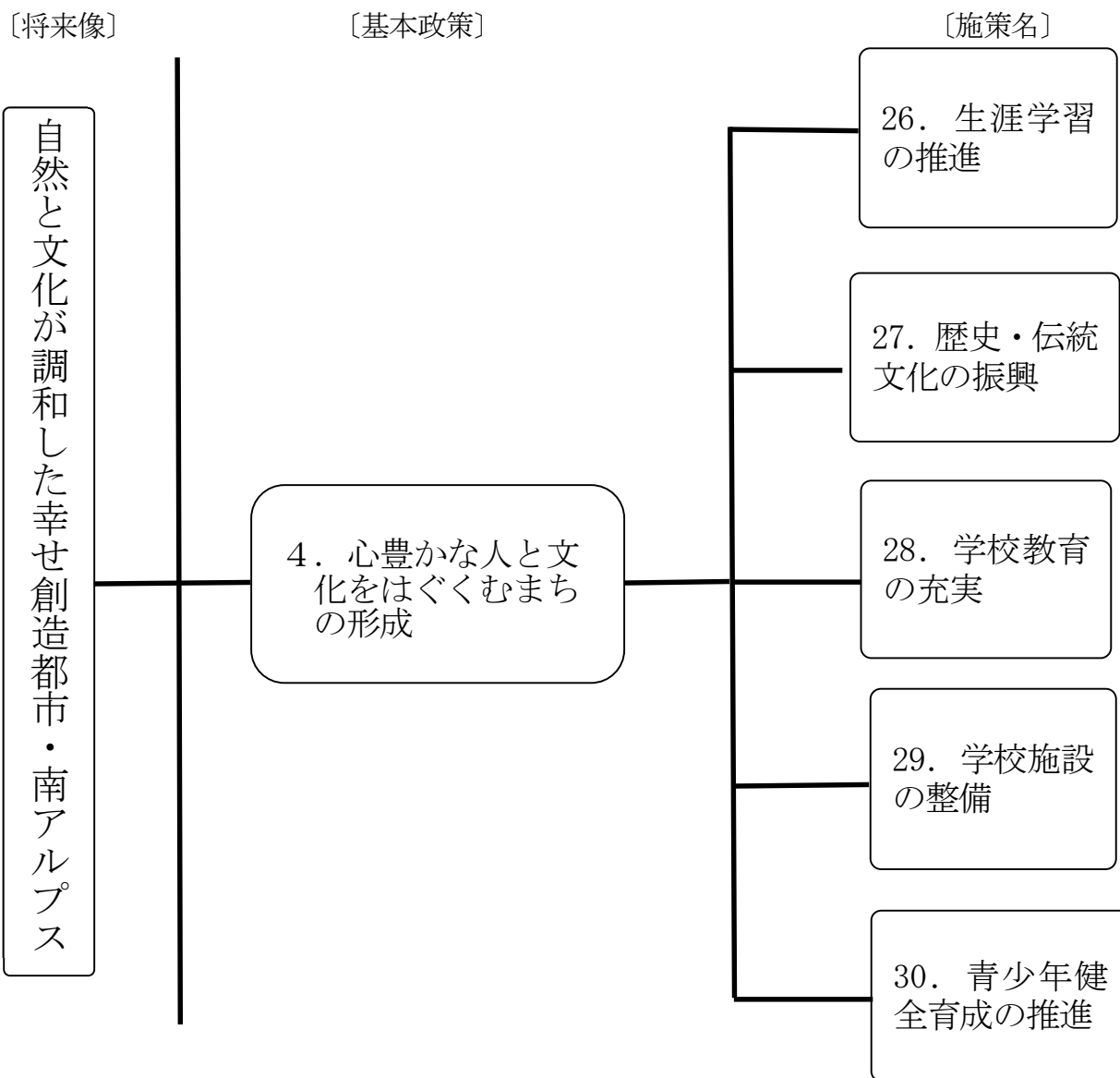
IV 教育委員会事務局の事務事業についての点検及び評価

1 教育委員会事務局の事務事業について

南アルプス市では、南アルプス市総合計画を策定し「自然と文化が調和した幸せ創造都市・南アルプス」という将来像を掲げています。教育委員会部門においては、この将来像の実現のため、基本政策が設けてあります。

基本政策「心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成」の中に「生涯学習の推進」、「歴史・伝統文化の振興」、「学校教育の充実」、「学校施設の整備」、「青少年健全育成の推進」の5つの施策があります。

2 第2次南アルプス市総合計画（後期基本計画） 体系（教育委員会関係抜粋）



3 第2次南アルプス市教育振興プラン 体系（抜粋）

南アルプス市の教育が目指す姿であります「南アルプス市の未来を創る人づくり」の実現のために、取り組む柱となる3つの目標を定めました。

目 標	施 策	施策の柱
1 生きる力を育む学校教育の充実	1 主体的に学習に取り組む教育の充実	① 学習意欲の向上 ② 資質・能力の向上を目指した指導
	2 豊かな心を育成する教育の充実	① 道徳教育の充実 ② ふるさと教育の推進
	3 健やかな体の育成	① 子どもの体力の向上 ② 食育・健康教育の充実
	4 すべての子どもたちへの支援	① 特別支援教育の充実 ② 子どもたちに寄り添った指導体制 ③ 教職員の資質の向上 ④ 経済的支援の充実
	5 小中一貫教育の推進	① 一貫性のある教育課程の編成 ② 小中学校の教職員・家庭や地域の連携
	6 学校施設の計画的な整備	① 学校施設・設備の整備・危機管理体制の充実 ② 長寿命化計画に基づく計画的な整備
	7 ICTの活用と充実	① 一人一台端末の活用の充実 ② 校務支援システムの活用

目 標	施 策	施策の柱
2 郷土の歴史的・文化的資源の活用 と伝統文化の振興	1 歴史的・文化的資源の保全と活用	① 歴史的・文化的資源の掘り起こし ② 歴史的・文化的資源の保護・保全 ③ 歴史的・文化的資源の活用
	2 歴史的・文化的資源の情報発信	① 情報発信拠点の整備と活用 ② 文化財情報の発信
	3 ふるさと教育の推進	① 教育普及事業の推進 ② 人材の育成と支援
3 生涯にわたる学習の充実	1 生涯学習拠点の整備	① 芸術文化の拠点としての環境づくり ② 学びを支える情報拠点としての環境づくり ③ 読書活動の推進 ④ 持続可能な社会教育施設の運営
	2 生涯学習活動の推進	① 市民主体の生涯学習活動支援 ② 学びの成果を活かす環境づくり ③ 学びの継続を支える環境づくり
	3 生涯スポーツの環境整備	① ライフステージに応じたスポーツ活動の推進 ② 人材の育成と団体支援 ③ スポーツ施設の整備・充実
	4 健全な青少年の育成	① 人間性豊かな子どもの成長を支える環境づくり ② 健全な青少年活動の推進 ③ 地域、家庭、学校が一体となった子どもを育む活動の推進

4 教育委員会事務局の事務事業に対する点検及び評価について

(1) 基本政策 : 4 心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成

施策名 : 26 生涯学習の推進 (42事業)

所属 : 生涯学習課／文化財課

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興プラン 目標 - 施策番号
公民館運営管理 事業	3	公民館活動として楡形地区3分館では、分館長、主事が中心となり事業展開し、地域住民の交流や文化の振興を図った。	3-2
生涯学習推進 事業	4	市主催講座の開催のほか、市民の自主的な学習活動の醸成を図るため「自主企画講座」の開催を支援した。生涯学習講座の開催回数は前年度とほぼ同数であったが、本市のこども・子育て応援都市宣言に関連し、親子で学ぶをテーマにした講座を実施したことで、受講人数も1.3倍に増加した。	3-2
社会教育関係団 体活動支援事業	3	社会教育団体に認定された団体の社会教育活動事業に対し、補助金を交付し、地域での社会教育の振興及び生涯学習の推進を支援した。認定10団体のうち、補助金交付は9団体であった。コロナ過を機に事業の見送りや事業規模を見直す団体もあるが、生涯学習の普及や地域の文化活動の振興に関する事業が実施された。	3-2
南アルプス市 高度農業情報 センター運営 管理事業	4	八田地区の生涯学習の拠点である当施設は、指定管理者であるシダックス大新東ヒューマンサービス(株)での運営管理期間5年間の最終年度であった。年間利用者数は21,289人で前年度と比べて1,085人増加した。また、カナリアホールを除く施設の照明は、リース契約によるLED化を実施した。	3-1
南アルプス市 高度農業情報 センター改修 事業	3	カナリアホールの特定天井は、地震や衝撃などで脱落した場合、大きな被害をもたらす可能性があるため、ホールの音響特性を損なわないよう耐震改修設計業務を実施した。また、八田窓口サービスセンター系統の空調設備の故障に伴い仮設エアコンの設置と改修に伴う設計業務を実施した。	3-1
ふるさと天文館 運営管理事業	3	ふるさと天文館運営協力会と協働し、口径50cmの望遠鏡を使って天体及び天文現象等の観測及び解説を実施し、利用者が安心して利用できるよう適切な管理・運営に努めた。年間利用者数は304人で前年度比116%だった。	3-2

所属 : 生涯学習課

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興プラン 目標 - 施策番号
若草生涯学習 センター運営 管理事業	4	若草地区の生涯学習の拠点である当施設は、指定管理者であるシャンブレイでの運営管理期間5年間の最終年度であった。年間利用者数は37,408人で前年度と比べて2,925人増加した。施設内のフリースペースは、市民や小中学生の居場所として根付き多くの方が利用している。また、施設の照明についてリース契約によるLED化を実施した。	3-1
甲西農村環境 改善センター 運営管理事業	3	直営の複合化施設として、シルバー人材センターへ受付業務及び清掃業務を委託している。多目的ホールは耐震性が十分でないため条件付貸出としていたが、年間利用者数は10,044人で前年度と比べ153人増加した。利用者には、他の施設の利用を促しながら開放を行った。また、南部教育支援センターとして学校に馴染めない児童・生徒の学習の場となっている。	3-1
甲西農村環境 改善センター 改修事業	3	施設の長寿命化改修に併せて耐震性において既存不適格である多目的ホールの改築に向けて設計業務を実施した。なお、改修事業に際しては、甲西地区自治会や文化協会等と情報共有をしながら事業を進めた。	3-1
楡形北地区 農村環境改善 センター運営 管理事業	3	直営の複合化施設として、シルバー人材センターへ受付業務及び清掃業務を委託している。市民が安心して利用できるよう適切な管理・運営に努めた。年間利用者数は2,842人で前年度と比べて238人増加した。なお、放課後児童クラブの年間利用者数は10,237人であった。	3-1
楡形西地区 農村環境改善 センター運営 管理事業	3	直営の複合化施設として、シルバー人材センターへ受付業務及び清掃業務を委託している。市民が安心して利用できるよう適切な管理・運営に努めた。年間利用者数は1,275人で前年度と比べて455人増加した。なお、放課後児童クラブの年間利用者数は3,156人であった。	3-1
南アルプス市 働く婦人の家 運営管理事業	3	直営の複合化施設として、シルバー人材センターへ受付業務及び清掃業務を委託している。市民が安心して利用できるよう適切な管理・運営に努めた。年間利用者数は2,216人で前年度と比べて87人減少した。なお、放課後児童クラブの年間利用者数は16,037人であった。	3-1
生涯学習 指定管理施設等 維持補修事業	3	市民が安全・安心して施設が利用できるように、緊急性を考慮し、優先順位をつけて、7施設（27箇所）の修繕対応をした。	3-1

所属 : 生涯学習課

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興プラン 目標 - 施策番号
芦安調理場 運営管理事業	3	直営施設である当施設は、芦安高齢者コミュニティセンター解体に伴い、その調理室機能を移転し、平成30年11月から供用開始した。市民が安心して利用できるよう適切な管理・運営に努めた。年間利用者数は、91人で前年度と比べ、27人増加した。	3-1
桃源文化会館 運営管理事業	4	市民が芸術文化に親しむ場や生涯学習活動の場として、指定管理者により、市民が安心して利用できるよう適切な管理・運営に努めた。年間利用者数は82,018人で前年度と比べて1,496人増加した。令和6、7年度の継続費を設定し、電気室において低濃度PCB廃棄物撤去を含む受電設備の改修と非常用発電設備の更新に着手した。	3-1
桃源文化振興協会 運営支援事業	3	専門的知識・技術を有する一般財団法人桃源文化振興協会職員の人件費を補助（運営支援）し、指定管理施設である桃源文化会館を芸術・文化の振興の拠点として、有効かつ効率的に管理・運営させた。	3-1
市文化協会 活動支援事業	3	市文化協会の事務局は桃源文化振興協会が担っている。各地区の文化団体の活動に対し財政支援することで、芸術文化の普及、生涯学習の振興を図った。	3-2
スポーツ推進委員 運営事業	4	広く市民一般に向けてスポーツ推進委員が開催する教室や大会への参加者は、令和4年度1,045人、令和5年度1,348人、令和6年度1,497人と、コロナ禍が明けて以降年々増加しており、スポーツを行う市民は増加傾向にある。	3-3
南アルプス市 スポーツ協会 支援事業	4	市民の健康及び体力づくりを推進するために開催するスポーツ協会主催の各種自主事業では、令和5年度から2事業拡大し合計15事業が実施された。	3-3
県外スポーツ大会 出場支援事業	3	県代表として、県外大会へ出場する際の経費負担軽減のための補助金を交付する事業。様々な大会が開催され令和6年度では11件の申請があり、スポーツで活躍する方々を支援することができた。	3-3
南アルプス市 ホームタウン ゲームの活動 支援事業	3	ヴァンフォーレ甲府サンクスデー（5/25）及び山梨クイーンビーズ（ホームタウン）戦（12/8）が開催された。観戦者へ特産品を配布するなど、県内外に本市をPRすることができた。	3-3

所属 : 生涯学習課

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興プラン 目標 - 施策番号
部活動地域移行 推進事業	3	部活動地域移行推進協議会（6/26、3/13）を開催し地域クラブ活動の取組みについて審議した。男女ホッケー部（白根巨摩中学校、白根御勅使中学校）、男子バレー部（若草中学校、甲西中学校）、野球部（全中学校）では、モデル事業を開催し、地域展開に対する課題、問題点の集約を実施した。	3-3
桃源郷マラソン 大会活動支援 事業	4	第22回桃源郷マラソン大会（4/14）を開催し、参加者は3,048人であった。令和7年4月の開催予定だった第23回大会は、コストコホールセール南アルプス倉庫店のオープンが見込まれることから日程を変更し3月30日（日）に開催した。県内外から3,047人の参加があった。	3-3
ホッケー競技 普及推進事業	3	市内2大会（6月、11月）を開催し合計77人の参加があった。9月14日～16日に開催された全国小学生ホッケー大会には20人が参加した。また、白根巨摩中学校と白根御勅使中学校の部活動へ外部指導者の派遣を行った。	3-3
社会体育施設 維持管理事業	3	社会体育施設及び学校開放施設の安全・安心確保することを目的に、各施設で17件の修繕工事等を実施した。	3-3
社会体育施設 指定管理事業	3	指定管理者制度により管理運営を行っている。社会体育施設等の利用者は増加傾向にあり、令和元年度は525,899人、令和2年度は316,515人、令和3年度は397,052人、令和4年度は432,009人、令和5年度は445,903人、令和6年度は550,401人であり、市民のスポーツを行う場となっている。	3-3
甲西市民総合 グラウンド 機能回復事業	3	平成28年度から継続的に取組んでいるリニア中央新幹線建設工事に伴う甲西市民総合グラウンドの移設事業について、令和5年度から令和6年度の2年間で、グラウンド整備工事、管理棟他改築工事を実施し、予定どおり令和7年3月に完成した。	3-3

所属 : 市立図書館

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興プラン 目標 - 施策番号
市立図書館 運営事業	3	市立図書館の円滑な運営を行い、読書活動や学習活動を高めるため館内掲示や特集コーナーの充実を図った。図書館システム更新のための臨時休館（10月21日～31日）があったことから、資料貸出総数は年間375,848冊で、前年比95.67%となった。 ふるさと人物室では、南アルプス市にゆかりのある人物（内藤多仲）の企画展や講演会を行うとともに、偉人マンガ「東京タワーをつくった人 内藤多仲」を3,000冊増刷し、マンガを活用した講座等を開催することでふるさと教育の推進を図った。また、テレビ番組「やまなし偉人伝『内藤多仲編』」に制作協力し、南アルプス市の偉人について広く周知することができた。	3-1
市立図書館 資料提供事業	3	市内各図書館では、新聞42紙（延べ）・雑誌345誌（延べ）を市民に提供した。図書館システム更新のための臨時休館（10月21日～31日）があったため、雑誌の貸出数は21,531冊で、前年比94%となった。	3-1
市立図書館 子どもの読書 活動推進事業	4	「おはなし会0.1.2」と「おはなし会」の開催回数と定員を増やしたため、子ども向け事業の参加者数は9,044人で前年比139%となった。夏休み行事・ビブリオバトル等を行い、子どもたちが継続して本に親しめる環境を整備した。また、学校と連携し児童・生徒が作成したPOPを市立図書館で展示し読書推進を図った。	3-1
図書館協議会 運営事務	3	年3回、図書館協議会を開催し、市民の図書館に対する要望や意見を市立図書館の運営に反映させた。また、電子図書館サービス開始(11月)に伴い、協議会委員向けの電子図書館体験を行った。	3-1
図書館システム 管理事業	4	市立図書館では、デジタル田園都市国家構想交付金を活用して、電子書籍・LINE連携等の付加価値を加えた新しい電子図書館システムに更新するとともに、電子書籍1,891点（一般書1,122点、児童書769点）を購入し、「いつでも」「どこでも」「だれでも」読書を楽しむことができる環境を整備した。また、学校と連携して市立小中学校の児童・生徒及び教職員に電子図書館サービスを提供し、クロームブックで電子書籍を読むことができるようになった。	3-1
図書館生涯学習 推進事業	3	5年ぶりに「安藤家住宅朗読会」を開催した。また、「図書館講演会・対談と朗読（檀ふみ氏×江宮隆之氏）」、「朗読会」「シニア講座」「読み聞かせ講座」等を行い、多様な学習機会を提供した。一般向け事業の参加者数は4,691人で前年比118%となった。	3-1

所属 : 市立図書館

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興プラン 目標 - 施策番号
ブックスタート事業	3	「ブックスタート事業」では、市内で生まれた赤ちゃん と保護者468人に絵本等を、「セカンドブック事業」では、市内の小学校1年生631人に本を贈った。また、読書離れの進む小学校4・5・6年生と中学生を対象におすす めの本を紹介する「サードブック事業」を行い、子どもの 発達段階に応じた読書を支援した。	3-1
図書館資料 購入事業	3	選書会議を週1回行い、一般書6,407冊、児童書3,769 冊、AV資料95点を購入した。また、寄附金を活用し、電 子書籍98点（一般書83点、児童書15点）を購入した。紙 の本と電子書籍を幅広く購入することで、暮らしに役立つ 資料を市民に提供することができた。	3-1
図書館事務 研修事業	3	「学校図書館との合同研修会」では、電子図書館につい ての研修を実施し、学校と連携した電子図書館サービスの 業務に反映することができた。また新任学校司書研修 を中央図書館で行い司書の資質向上に努めた。研修会では、各担当が業務に関係する研修を受講することで最新 情報等を得られ、業務に活かすことができた。	3-1
楡形生涯学習 センター管理 事業	3	市民が安全・安心に学習及び文化的活動に取り組めるよう、ホール音響設備の改修工事等を実施した。施設の利 用も増加しており、総利用件数は1,237件で前年度比 127%と増加した。年間利用者数は前年度比約91%の 16,469人と減少しているが、音響改修工事により9、10 月にホールの利用ができなかったことが影響していると 考えられる。 また、市民が文化・芸術に触れる機会の創出を目的として、映画会、コンサートなどの自主企画事業を実施し た。各イベント参加者の総数は1,680人で前年度比108% の増加となった。	3-1
図書館司書 会計年度任用 職員配置事業	3	市立図書館（5館1分館）の円滑な運営を図るために、図 書館司書会計年度任用職員を配置し、効果的な図書館運 営を行った。	3-1
白根生涯学習 センター運営 管理事業	4	市民が安全・安心に学習及び文化的活動に取り組めるよう、防犯カメラの増設と地中ヒートポンプの修繕を行っ た。総利用件数は1,750件で、前年度比108%となった。 施設の年間利用者数は26,889人で、前年度比131%と なっており、需要が拡大している。	3-1

所属 : 市立美術館

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興プラン 目標 - 施策番号
美術館企画展 事業	5	企画展として「なばたとしたか こびとづかんの世界」展を開催し、28,914人の入館者があった。今後も質の高い魅力ある展覧会を開催し、市民の文化意識を高めるとともに、入館者の増加促進を図っていく。	3-1
美術館常設展 事業	3	常設展として「花・花・花」展、「白簾史朗 日本の名峰を撮る」展、「山本正文と詩人たち」展、「人・人・人」展、「本杉 琉」展を開催し、6,692人の入館者があった。 収蔵作品の中から、テーマに特化した展覧会や、初めての試みとして現代アートの造形作家の展覧会を開催するなど、芸術文化の楽しみを発見できる事業を展開した。	3-1
教育普及事業	3	学校や保育所と連携したワークショップや学校に出向きワークショップを行う「出張美術館」など、学校の美術活動を支援するなど博学連携を推進した。 また企画展開催時、市内文化施設と連携したスタンプラリーを開催し、展覧会を広く周知するとともに、市内文化施設の周知にも努めた。 引き続き博学連携の強化を図り、教育普及事業を推進していく。	3-1

(2) 基本政策 : 4 心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成

施策名 : 27 歴史・伝統文化の振興 (13事業)

所属 : 文化財課

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興プラン 目標 - 施策番号
文化財保護活用 事業	3	文化財審議会の運営や規程に基づく文化財管理報償金の 交付などを通じ、活用すべき文化財の保護に務めた。	2-1
文化財教育普及 事業	4	実施した講座等の回数は257回、延べ参加人数は、 10,381人となり、それぞれ前年比110%、108%となっ た。中でも、学校関係を除く一般向けの講座等の数は、 110回を数え、合併以来最多となった。市民ニーズの高 まりが見て取れる。	2-3
宝珠寺のマツ 松くい虫防除 支援事業	3	同木が樹勢を保った年数を成果の指標とし、文化財所有 者の行う松くい虫防除事業の補助を行った。合併後21年 間木の状態は良好に保たれている。	2-1
鏡中條のゴヨウ マツ松くい虫 防除支援事業	3	同木が樹勢を保った年数を成果の指標とし、文化財所有 者の行う松くい虫防除事業の補助を行った。合併後21年 間木の状態は良好に保たれている。	2-1
長谷寺の防災 施設保守点検 支援事業	3	建造物が良好に維持された年数を成果の指標とし、文化 財防災施設保守点検事業の補助を行った。合併後21年間 建造物は良好に保たれている。	2-1
文化財教育普及 看板設置事業	3	藤田の泉能寺が管理している市指定文化財「五味国鼎の 墓」の案内板1件を更新した。	2-2
埋蔵文化財 調査受託事業	3	中北農務事務所所管のほ場整備に伴う発掘調査2件、民 間の宅地造成事業に伴う発掘調査1件を受託し、当初計 画通りに完了した。また、令和6年度からフモット建設 に伴い実施した発掘調査の整理作業を開始している (令 和10年度まで5か年計画)	2-1

所属 : 文化財課

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興プラン 目標 - 施策番号
市内試掘確認 調査事業	3	市内の遺跡の保護を図った数を成果の指標とし、達成率は100%。試掘調査の実施件数は23件であった。	2-1
国指定史跡「御 勅使川旧堤防」 整備事業	3	史跡のうち、枳形堤防については、令和4年度より整備工事を実施してきたが、令和6年度中に完了し、一般公開を開始した。また、枳形堤防の今後の活用と史跡の残る部分の整備方針について、保存整備委員会を継続的に開催して検討し、石積出三番堤の確認調査（発掘調査）も実施した。	2-1
ふるさと文化 伝承館運営事業	4	令和6年度の利用者数は、前年度から5%増の9,768人となり前年度に引き続き過去最高を更新した。また、テーマ展「てっすげえじゃんけ！ 枳形堤防、将棋頭、石積出」、「にしごおりのぼこんとう（西郡の子どもたち）」を開催し、整理途中のフモット建設に伴う出土遺物のミニ展示も随時開催した。	2-2
安藤家住宅運営 管理事業	5	令和5年度の大型バス駐車場とトイレの整備を受けて、周知活動を集中的に実施するとともに、マスコミにも積極的に情報を発信し、毎月休まず催事・イベントを実施した。この結果、令和6年度の入館者数は5,703人となり、前年比146%と大幅に増加している。	2-2
安藤家住宅 イベント開催 事業	4	令和6年度は、コロナ禍で中止していた安藤家秋まつり昼の部を再開したのをはじめとして、毎月必ず何かの催事、イベントが行われるように企画した。内容についても前例踏襲にとらわれず、費用対効果などを精査し、適宜見直しを行い、入館者増に寄与した。	2-2
ふるさと 〇〇博物館 推進事業	4	新たな証言や資料の収集などを継続して行い、調査成果をふるさと文化伝承館の展示に反映することができている。「デジタルアーカイブ」への地域資源の登録件数も順調に増え、令和6年度末時点で前年比120%の1,191件を数え、はじめて1,000件を越した。年度中のアクセス件数も72万件、前年比107%と着実に増加し、高水準で推移している。	2-2

(3) 基本政策 : 4 心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成

施策名 : 28 学校教育の充実 (47事業)

所属 : 教育総務課

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興プラン 目標 - 施策番号
教育長交際 活動費	3	教育行政執行のため外部との交際上必要な経費である。 内部基準に照らし執行した。	-
教育委員 活動事業	3	定例（臨時）教育委員会の開催。学校訪問や教育研修の 実施。各種研修会に対して積極的に参加し、知識向上を 図った。	-
教育委員会 事務局管理事務	3	公用車、コピー機等の維持管理やコピー用紙、封筒のリ サイクルなど、無駄のない予算管理に努めた。	-
巨摩高校定時制 教育振興会参画 事業	3	定時制生徒が行う部活動や校外活動に対し、本市、富士 川町、中央市や生徒の雇用主及び同窓会等で組織する教 育振興会が支援を行うため、負担金を支出した。	-
小林愛則育英 奨学会支援事業	3	将来、社会の中核となる人材を育成する目的として、高 校3年間奨学金を給付している。令和6年度は新規3人・ 継続を含めた9人に奨学金の給付を行った。	1-4
芦安活性化対策 育英奨学金貸付 事業	3	芦安地区の過疎対策事業として育英奨学金貸付事業を 行っている。申請対象者がいなかった。償還金対応業務 を行った。	1-4
南アルプス市 奨学金貸与事業	3	保護者の経済的負担を軽減し、社会貢献し得る人材育成 を図るために貸与業務を行い、令和6年度は高校生1人・ 大学生3人に貸与を行った。	1-4

所属 : 学校教育課

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興プラン 目標 - 施策番号
教育支援センター運営管理事業	3	学校へ登校することが困難な児童・生徒への学習支援・教育相談を行っている。保護者や学校と連携を図る中で、学校復帰・高校進学を目指して取り組んだ。また、教育相談員と臨床心理士による入所生徒や保護者へのカウンセリングを通して、児童・生徒への支援を丁寧に行った。令和5年度からは北部教育支援センターを新たに開設し、利便性の向上を図っている。在籍者数は合計13人であった。	1-4
学びの質を高める授業づくり推進事業	3	指定校（1年次：白根百田小学校 2年次：小笠原小学校・楡形中学校）を定め、児童・生徒が互いの意見や考え方を聴き合い、学び合う授業づくりを目指し研究を深めた。また、授業公開によって、研究内容を市内の小中学校に示した。年度末には教育委員会が主催し、市内22校の教職員を対象とした成果報告会と講師を招聘しての教育講演会を実施した。	1-1
南アルプス自然体験推進事業	3	ユネスコエコスクールである芦安小中学校を対象に南アルプス市の身近な自然を生かした体験学習を通して、児童・生徒に南アルプス市の自然や伝統文化について学ばせる機会としている。令和6年度においても、中学校自然パトロールや登山、小学校は楡形山登山や森林学習を実施した。	1-2
いじめ・不登校未然防止推進事業	3	小学校5年、中学校1年でQ-U検査を実施し、学級、学年の集団分析を行い、いじめや不登校の未然防止、早期解消に向け、その活用を図った。また、教育講演会を実施して困難を抱える児童・生徒やその保護者の理解、学校としての支援のあり方等について研修を深めた。	1-4
スクールガードリーダー事業	3	児童・生徒が安全に安心して登下校できるように、通学路の巡回や学校周辺のパトロールを実施した。また、研修会等を実施した。	1-4
教育推進管理事務	3	指導主事等がICT教育や、特別支援教育等、県下同一步調で進める喫緊の教育課題についての研修を受け、その研修内容を市内22校に還流しながら、必要な指導・助言を行った。また、国や県からの指導、教育雑誌から得られた最新情報、研究結果等を具体化し、学校訪問や研究会で提示した。また、特別支援教室・教育に必要な備品購入を行い、支援が必要な児童・生徒の学習環境を整備した。	1-4
南アルプス市学校応援団育成事業	3	各中学校区のコーディネーターを中心に、地域ボランティアを募り、見守り隊を含め約400人程の登録がされた。読み聞かせや農業体験をはじめとした体験活動や環境整備等、学校の要望に対応した講師を派遣することができた。大学生の学生サポーターは18人に留まったが、児童・生徒のための支援を行うことができた。	1-4

所属 : 学校教育課

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興プラン 目標 - 施策番号
小中学校教師用 指導書・教師用 教科書購入事業	3	少人数学級導入により増加した教室分及び、令和6年度に改訂された小学校の後期分と令和7年度から改訂される中学校の教師用指導書・教科書を購入した。	1-4
社会科副読本・ わたしたちの 南アルプス市 作成事業	3	ふるさとを愛する心を育てることを目的とし、市内小学校3, 4年生を対象とした、南アルプス市の公共施設や文化財など、地域の身近な情報について学ぶことができる副読本を作成した。(4年ごとに改訂)	1-2
若草南小学校 情緒障害通級 指導教室	3	市内の小学校の普通学級に在籍する支援を必要とする児童を対象に、自立活動を行っている。令和6年度は市内13校から46人の児童が通級した。北部地区では、白根百田小学校で巡回指導を実施した。	1-4
小中学校におけ る小笠原流礼法 推進事業	3	小笠原流礼法宗家本部と関わりながら、礼法指導を行う2人の師範を市内小中学校22校に派遣した。各クラス2回ずつ授業を行い、小中学校9年間を通し、心を育てる指導をした。教職員対象に卒業証書授与伝達講習会等を実施し、指導にあたる教職員の理解度も高めてきた。	1-2
教育相談事業	3	多様化する児童・生徒の諸問題に対し、臨床心理士と教育相談員を配置し、児童・生徒及び保護者等の相談を行った。今後も、低年齢のうちから継続的な相談を行える体制の強化をしていく必要がある。	1-4
部活動指導員 任用事業	3	白根巨摩中学校(陸上部)、白根御勅使中学校(ホッケー部)、芦安中学校(バドミントン部)等19の部活動において外部指導員を雇用し、部活指導教員の支援及び生徒の技術等の向上を図ることができた。	1-3
第三次小中学校 教育系ネット ワーク整備事業	3	文科省のGIGAスクール構想に沿って、各小中学校に整備した無線LAN環境や児童・生徒1人1台のコンピュータを正常に使用できるようにするための保守管理を行った。また、修理不可能な1人1台端末の台数を補充するため新規に60台を購入した。	1-7
橿形中学校情緒 障害通級指導 教室運営事業	3	市内の中学校の普通学級に在籍している支援を必要とする生徒を対象に橿形中学校にサポートルームを開設した。23人の生徒が通級し、生活上、学習上の困難の改善、解消のための自立活動を行った。また、八田中学校・白根巨摩中学校・白根御勅使中学校・若草中学校の巡回指導を行った。	1-4

所属 : 学校教育課

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興プラン 目標 - 施策番号
教育支援体制 整備事業	3	児童・生徒の学びの補償をサポートし、学校教育活動を支援する学力向上支援員を配置した。全校に配置することにより、特別なニーズが必要な児童・生徒の指導・支援につながり、教職員の業務改善にもつながった。また、国の補助金を活用し、医療的ケアが必要な児童に対し看護師の派遣を行った。	1-4
採点システム 導入事業	3	教員の多忙化改善及び児童・生徒への適切な指導のため、国の補助金を活用し、市内中学校に採点システムを導入した。	1-7
市単講師派遣 事業	3	目標どおり34人の市単講師等を配置し、支援を必要としている児童・生徒に対して、きめ細かな指導をすることができた。支援が必要となる児童・生徒は増加傾向にあり、継続した市単講師の確保が課題である。	1-1
司書臨時職員 配置事業	3	目標どおり13人の市単司書を配置し、芦安小中学校は兼務、それ以外は1校1人の配置ができた。今後も現状を維持し、学校図書館の有効活用を支援する。	1-4
用務員臨時職員 配置事業	3	目標どおり芦安小中学校を除く学校に、児童・生徒が快適に学校生活を送ることができるよう市単用務員を配置することができた。	1-4
学校図書館蔵書 管理事業	3	学校図書館の蔵書とその貸出等をシステムで管理するとともに、学校・公立図書館間で情報共有を行うことができた。	1-4
学事管理事務	3	学齢簿の管理や転学等の就学事務を円滑に実施することができた。さらに、学校予算のうち学事管理事務で一括計上できるものは予算を集約・削減に努めた。	1-4
学校災害補償 保険事業	3	学校施設の瑕疵等、財物の滅失等の損害、学校管理下における児童生徒等の事故等の災害に対する保険に加入した。	1-6
小中学校清掃 委託事業	3	入札により選定した業者により小中学校22校の校舎、体育館等の清掃を行い、快適な学校環境の維持向上に努めた。	1-6

所属 : 学校教育課

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興プラン 目標 - 施策番号
学校消火器 管理事業	3	学校に設置されている製造から10年が経過した、法令上 期限切れの消火器の入替を行った。	1-6
外国語指導講師 配置管理事業	3	1人のアドバイザーと10人のALTを配置し、小中学校にお いて英語でのコミュニケーション指導を行った。	1-1
芦安教育推進 事業	3	小規模特例校である芦安小中学校の特色ある教育の実施 ときめ細やかな授業のため、ALT1人を常駐させ、英 語以外（音楽・体育等）の活動にも参加させることによ り、コミュニケーションの機会を充実させた。また、英 語検定料の補助の実施や、市単講師を配置しての複式学 級解消を図った。	1-2
小中一貫教育 研究推進事業	3	楡形・白根巨摩中学校校区では令和3年度に引き続き、甲 西・白根御勅使中学校校区では、令和4年度から小中一貫 教育推進協議会を開催した。それぞれの地域の特徴を生 かせるような取り組みを進めた。	1-5
学校運営協議会 事業	3	八田・芦安中学校校区では令和4年度に引き続き、若草中 学校校区では令和6年度から学校運営協議会を開催し、地 域と学校との連携に向けて取り組みを進めた。	1-5
小学校地域ふれ あい道德教育 推進事業	3	児童の「心の教育の充実」を図るため、地域の人々との ふれあいを中心とした道德教育を市内15小学校にて行っ た。	1-2
小学校要保護就 学援助及び特別 支援教育就学奨 励費事業 (補助)	3	要保護世帯の生徒3人の保護者に対し修学旅行費の一部 を、特別支援学級に在籍する児童128人の保護者に対し 特別支援教育就学奨励費を支給することができた。	1-4
小学校準要保護 就学援助事業 (単独)	3	準要保護世帯の児童241人の保護者に対し就学援助費を 支給することができた。さらに、新入学用品費の入学前 支給も32人に実施することができた。	1-4
中学校地域ふれ あい道德教育 推進事業	3	生徒の「心の教育の充実」を図るため、地域の人々との ふれあいを中心とした道德教育を市内7中学校にて行っ た。	1-2

所属 : 学校教育課

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興プラン 目標 - 施策番号
中学校準要保護 就学援助事業 (単独)	3	準要保護世帯の生徒154人の保護者に対し就学援助費を支給することができた。さらに、新入学用品費の入学前支給も46人に実施することができた。	1-4
中学校関東大会 ・全国大会出場 支援事業	3	学校教育活動の一環として県外で行われる関東・全国大会に出場する経費の一部を補助した。	1-3
中学校要保護就 学援助及び特別 支援教育就学奨 励費事業 (補助)	3	要保護世帯の生徒2人の保護者に対し修学旅行費の一部を、特別支援学級に在籍する生徒64人の保護者に対し特別支援教育就学奨励費を支給し援助することができた。	1-4

所属 : 市立学校給食センター

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興プラン 目標 - 施策番号
学校給食費徴収 事業	3	令和6年度の給食費の収納率は100%。児童・生徒の給食費無償化を実施したため、現年は教職員のみの徴収を行った。過年度未納分については減少に専念する中で、支払督促や不納欠損の実施等適正な事務処理に努めた。	1-3
学校給食費等 補助金交付事業	3	市立学校以外の義務教育諸学校に在学している児童・生徒の保護者や、市立小中学校に在学しているが食物アレルギー等やむを得ない事情により弁当を持参する児童・生徒の保護者に対して補助金を交付した。	1-3
北部学校給食 センター給食 事業 (学校給食)	3	給食の提供は、衛生管理に細心の注意を払いながら、時間内に安全・安心な給食を届けることができた。食育指導では、ICTを活用した食育も進めた。食物アレルギーへの対応は通常通り行った。給食の食材の値上げが続くなか、令和6年4月1日から一食単価を小学生318円、中学生360円に見直し、質・量を落とすことなく給食を提供することに努めた。	1-3
南部学校給食 センター運営 事業	3	給食の提供は、衛生管理に細心の注意を払いながら、時間内に安全・安心な給食を届けることができた。食育指導では、ICTを活用した食育も進めた。食物アレルギーへの対応は通常通り行った。給食の食材の値上げが続くなか、令和6年4月1日から一食単価を小学生318円、中学生360円に見直し、質・量を落とすことなく給食を提供することに努めた。	1-3

(4) 基本政策 : 4 心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成

施策名 : 29 学校施設の整備 (5事業)

所属 : 教育総務課

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興プラン 目標 - 施策番号
小学校施設 設備整備事業 (単独)	3	学校からの修繕要望に対し、設計、調査等を22件と落合 小学校エレベーター増築工事ほか82件の修繕工事を実施 した。	1-6
若草小学校 改築事業	3	若草小学校校舎の改築に先立ち、旧校舎の解体工事を実 施した。また、新校舎改築工事に係る建築主体工事・電 気設備工事・機械設備工事の契約を締結した。 屋内運動場改築・グラウンド等外構工事の実施設計を実 施した。	1-6
中学校施設 設備整備事業 (単独)	3	学校からの修繕要望に対し、設計、調査等を8件と甲西 中学校音楽室空調設備改修工事ほか37件の修繕工事を実 施した。	1-6
中学校水泳授業 民間施設等活用 事業 (試行)	3	今後の学校プールの施設整備の在り方について方向性を 検討するため、白根御勅使中学校の水泳授業を白根 B & G 海洋センターのプールで実施した。	1-6
教育施設建築 工事等発注者 支援事業	3	教育委員会発注工事の設計・仕様精査、施設点検支援、 教育施設整備に係る計画の作成支援等を業務委託するこ とにより、教育施設の適正な整備を実施した。	1-6

(5) 基本政策 : 4 心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成

施策名 : 30 青少年健全育成の推進 (11事業)

所属 : 生涯学習課

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興プラン 目標 - 施策番号
青少年育成 コーディネー ター設置事業	3	青少年の健全育成活動を推進する市民会議の事務局業務を担う。子どもクラブ・育成会・青少年育成推進員・自治会・学校・PTA 等と連携を図り、地域性を活かした活動を図るため、関係機関との連絡・調整を担い事業を円滑に推進した。また、市民会議各支部が担う地域学校協働本部をサポートし、地域と学校がパートナーとなり行う地域学校協働活動を推進した。	3-4
青少年育成推進 会議運営事業	3	110人（定員112人以内）の推進員が、市民会議専門委員会に所属し、青少年活動や地域イベントなど広く青少年健全育成活動を展開している。また、研修会の実施や児童・生徒の夏季、冬季休業期間にはチラシを配布するなど啓発活動を行った。	3-4
ジュニアリー ダー養成事業	3	市内中高校生45人が、地域や学校でリーダーとして活躍することを目的に、令和6年度は年16回の養成研修を実施した。北杜市ジュニアリーダーとの合同研修、観光推進課ユネスコエコパーク担当と合同で楡形山登山研修、職場体験として保育所実習などの研修を行った。	3-4
二十歳のつどい 事業	3	二十歳対象者の門出を祝い自立を促す事業とし、毎年1月に開催。実行委員会を立ち上げ、式典対象者による企画運営で式典を挙行了。来場できない対象者・保護者のため、YouTube動画配信を行った。（二十歳対象者791人中632人、参加率79.9%）（前年度 二十歳対象者768人中623人、参加率81.1%）	3-4
市子どもクラブ 指導者連絡 協議会支援事業	3	子どもクラブ毎に子どもの育成事業を実施している(76団体)。 子どもクラブ活動の活性化を図るため、指導者の活動に対し支援をする。6月「救急講習会」、7月「ラジオ体操講習会」、11月「子ども・若者育成支援推進大会」、2月「青少年のためのインターネット安全・安心講座」等を開催した。	3-4
青少年育成南ア ルプス市民会議 支援事業	3	広く市民が青少年問題の重要性に着目し、健全育成を図ることを目的に様々な活動を活発に展開している。事業の見直しを図り、登下校時のみまもり活動を活発にするため、全支部で関係団体に「みまもりたすき」を配布した。また、各支部に青少年育成コーディネーターを配置し、専門的な立場で指導・助言を行った。	3-4

所属 : 生涯学習課

事務事業名	評点	評価の視点	教育振興プラン 目標 - 施策番号
南アルプス警察 署管内少年補導 員支援事業	3	少年の非行防止活動の推進及び各種防犯団体の活動支援 や関係団体との連携を図る活動を目的とした協議会へ補 助金を交付した。	3-4
キッズタウン 南アルプス支援 事業	3	地域人材を生かした職業体験事業として、実施主体であ る商工会青年部に財政的支援を行った。令和6年度は247 人の参加者があった。地元の人仕事を体感し、憧れや 興味を抱き、伝統や仕事の大切さを学ぶ貴重な機会と なっている。	3-4
青少年国内交流 ・交流支援事業 (津別町)	3	令和6年度は津別町より小学生19人が来訪した。夜叉神 登山や桃狩りなど南アルプス市の魅力を伝えるととも に、市内の学生と交流を図った。	3-4
青少年国内交流 ・交流支援事業 (小笠原村)	3	令和6年度は小笠原村に25人（生徒20人、引率5人）が訪 問した。海を中心としたアクティビティを体験し、小笠 原村の生徒たちとのふれいあいの時間を持つことができ た。交流を通し小笠原村への理解を深めることができ た。	3-4
青少年国内交流 ・交流支援事業 (穴水町)	3	能登半島地震の影響を考慮して交流事業を実施した。	3-4